



月報 岡崎の教育

9 月 号

平成3年9月1日
発行／編集
岡崎市教育委員会

「あつ、めが出ている」
「このふたば、ぼうしかぶってるよ」
のぞきこむ目と目
たねまきから一週間後の小さな発見
子供たちとヒマワリとの出会い

「見て見て、ぼくと同じ高さになった」
「このはっぱ、わたしの顔より大きい」
花の成長をとらえる指と手と顔
茎の間は迷路の遊び場
ヒマワリは 子供たちの友達

それもつかの間
毎朝一杯の水と
子供たちの声を栄養にして
ぐんぐんのびる
「もうすぐ二階にいいちやうね」
「ぼくも、はやく大きくなりたいな」
ヒマワリとともに育つ子供たち
太陽の下、大きな花を咲かせてほしい

（ヒマワリ）



（やきた山で遊ぶ子供たち - 矢北小）



教育のトライアングル構想

— 教育随想 —

愛知県学校給食会常任監事 中村 巽

平成四、五年度から全面实施となる新学習指導要領である。各学校では、それぞれ移行措置を経て全面实施の体制がつけられていることであろう。

そこで、新指導要領の目指すものについて、日頃考えていることについて所見を述べることにする。

私は、二一世紀の求める人間像というもの、**「健全な心身を持ち、困難に打ち勝って疲れず、興味を持ったことを、全力を出し切って、汗してやりぬく人間」**であろうと考える。「困難に打ち勝って疲れず」「汗してやりぬく」ということが特に大切ではないかと考える。

「**3K拒否人間**」といわれる今の若者が、高齢化、情報化、国際化の進展する社会にあって、世界のリーダーとしての日本を築いてくれるとは考えられないのである。それだからこそ、今学習指導要

領が改訂されたはずである。

では、どうして二一世紀の求める人間像を子どもたちに具現していくのか。それが指導要領に示されているはずである。

そこで、指導要領の総則を読み直してみると、**「①自ら学ぶ意欲と、②社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を図るとともに、③基礎的・基本的な内容の指導を徹底し、④個性を生かす教育の充実に努めなければならない」と**ある。

そこで、私見二一世紀の求める人間像と指導要領との相関関係を述べる。

まず「健全な心身を持ち、困難に打ち勝って疲れず」とは、**①自ら学ぶ意欲と②社会の変化に主体的に対応できる能力**であると言える。心身が健全で、困難に打ち勝つ力は、自己教育力と主体的な対応能力によって養えるものである。

「興味を持ったことを、全力を出し切

って、汗してやりぬく力」は、基礎的・基本的な指導の徹底と個性を生かす教育の充実によってのみ育てられるものである。

さて、こうした理念に立つて教育する学校の教師は、総則の示す目標を個々に押さえながらも、人間教育としての全体の関連を、トライアングルの共鳴のように響き合う関係としてとらえなければならない。つまり、基礎的・基本的な内容の指導の徹底は、個性を生かす教育に響き合い、それはまた、自ら学ぶ意欲や変化に主体的に対応する能力の育成に響き合うものでなければならないのである。

基礎・基本の徹底と個性を生かす教育は、矛盾するものではなく補完し合うものである。他の人に学ぶ態度（基礎・基本）を育てることで、「自分の考えの再構築」という個性教育ができるし、豊かな感受性（個性）を養うことで、「人の身になって考える」基礎・基本の教育ができるのである。

こうした「教育のトライアングル」効果は、かかって教師の指導力によってのみ現れる。個性的な発想や思考方法を大切にする個性教育と、共同思考による論理的思考力の育成という基礎・基本教育の両方を大切にする指導である。

また、そういう指導のできる教師は、自分の計画に拘らずに「待つてやれる」ゆとりのある指導と、「子どもの力に驚いてやれる」愛情があるものである。

（なかむら たつみ）

子供の考えを生かす

家庭科指導員

山中三江子



「おいしいごはんの炊ける秘訣がわかったかな。」

いっせいに手が挙がる。ひとり調べでわかったことを次々に発表する子供たち。火加減、水加減、吸水時間、中に入れるもの、さまざまな意見がでる。

「火加減はどっちになったの。初めちよろちよろの方。」

と、教師が子供たちに問いかけ、話し合いが火加減の方に焦点化された。

「昔の人が言ったんだけど、初めちよろちよろ、中ばつば、ぶつぶついたら火をひいて、赤ちゃん泣いてもふたとるな、という炊き方がいい。」

「燃えている時どうやって弱くするの。」

「木を入れないようにする。」

「飯盒炊飯のときは、強火で、早く炊けたから、強火がいいと思います。」

「強火にするとこげるとよ。」

「私は、最初が強火で、あと弱火にするのがいいと思う。」

ふるさとシリーズ

この人に聞く



卓球

神谷 新三 氏

卓球を始められて四十年、岡崎市体育協会理事長を経て、現在は卓球協会会長をされている神谷新三氏に、市の体育館でお話を伺うことができた。

卓球を通してスポーツ全般への考え、今日に至るまでの歩み、今後の抱負などについて語ってくださいました。

「もともとは高校時代に剣道をやっていたんですよ。たまたま種鶏場に勤めていた時に、卓球の実業団の試合がありましたね。団体戦の人数が足りなくて剣道をやっていたなら卓球もやるだろうと声をかけられたのが卓球を始めるとききっかけなのです。」

当時の様子を思い出さずかのように、「練習は、とても辛いものでした。毎日夜十二時頃まで、コートにしぼられました。基礎トレーニングも時間をかけて随分やりました。プレーで失敗をするとランニングとか、また強くなるためには、体力をつけていかないと通用しませんから。」

全日本に何度か出場されているので、日本の卓球の力についてお聞きした。

「日本の選手は、技術的には上手でありAランクに入ると思います。しかし、強さがないんです。その強さとは、幅広くだと思えます。一つの事だけをやっているも強くなるし、ヨロツバやアメリカでは、クラブ組織がとでもしっかりとしていて、コートが強くなっていくんですよ。」

三十五歳になるまでは、一年に一回くらいはトップ的な動作ができたが、自分の限界を感じ、それ以後はコーチとして卓球をやっていると考えられたそうです。現在では、小学生から中学・高校生・社会人・老人に至るまで、幅広い層の方に対して指導されているとのこと。その情熱に驚かされる。

「小学生を指導する時は、卓球をやるんだという教え方をしたらついてきません。ラケットと球を持って練習するのは二時間のうち十五分から二十分です。一つの事を教えるのに、集中して教えるのは五分だけです。卓球を教えるのには、気が長くなければなりませんね。」

卓球が大好きで、教える事を楽しみにしていってしやる様子が伺えた。これからの抱負について強く語られた。

「小学生から育てていきたい。小学生のうちには、幾つかのスポーツをやって全般的な基礎体力をつけ、運動する喜びを知ることが大切なことでしょう。そして、中学校になったら、自分に合った専念できるスポーツを決めていくと良いですね。中学だけで小さく固まってしまうのではなく、そこから高校へつなげ、社会人へつなげ、頂点に向かう卓球人を育てたいんですよ。」

学校教育においても、生涯教育の大切さを考えさせられる思いがした。

氏 名 かみや しんぞう
生年月日 昭和三年一月一日
住 所 岡崎市江口二丁目二の八



「これはガスで炊く時で、飯盒で炊くのとでは違うけど、お母さんが言っていた。」
「炊飯器は、機械で調節しているから、強火じゃないと思う。」

「どこから分かるの。」
初めは強火がよいという意見。初めは弱火がよいという意見。最初から最後まで強火、あるいは弱火という意見もある。互いに相手を説得するだけの根拠を述べることができない。意見は平行線のままである。

「それぞれの炊き方でいいのかな。」
教師が、つぶやくように言った。少しの沈黙の後、一人が手を挙げ、「やってみよう。」

と言いだし、実際に炊いて確かめることになった。

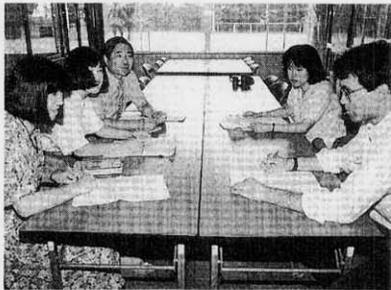
ともすると、教師が、「実験して確かめてみよう。」
と言いたくなる場面だが、この教師はそうはしなかった。

指示や教えを待ち、本の内容に疑問も持たずにうのみにする子が増えているがこの学級には、自分の力で調べ、自分の力で課題を解決しようとする子供たちの姿がみられた。

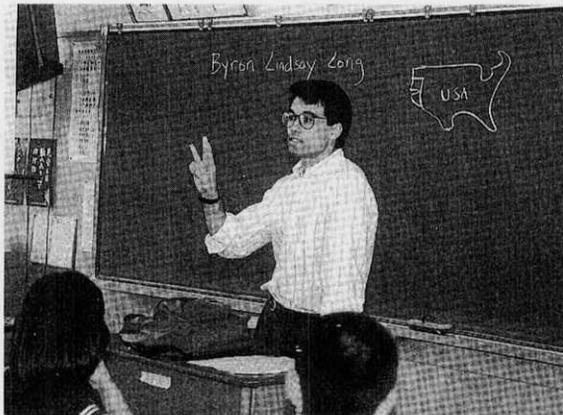
どんな意見も黙って聞いていて、話し合いが混乱したり、焦点がずれたりすると、なにげなく発言し、話し合いの方向を示していた教師。子供たち一人ひとりの考えを大切にしている教師だから、このように子供たちが育つのであろう。

Assistant English Teacher

岡崎市の 英語指導助手



◀ 授業前、英語担当の先生と
綿密な打ち合わせをする。



▶ ジェスチャーたっぷりの授業。英語でしゃべると生徒が驚くことに驚く。

「岡崎の子供たちに生きた英語に触れさせたい」。岡崎のAETの制度は、こんな願いで始められた。今年の九月で、ちょうど一年になる。現在は、バイロン・ロングさんとマリリン・スマイスさんがその任務にあたり、主に次の活動をしている。

① 中学校での英語授業の補助
英語担当の先生と打ち合わせをし、授業中に直接指導する。

② 英語教師の研修の補助
発音やアクセント等、教師の

▶ 打ち合わせの様子



◀ スマイスさんのにこやかな授業ぶり

AET
バイロン・ロングさん



プロフィール

アメリカ生まれ。日本で英語を教えたいという希望からAETになったそうである。

・岡崎の先生の印象
若い先生が仕事に大変熱心であり、ベテランの先生は楽しんで教えている。

・中学生に望むこと
完璧でなければならぬと思わないで欲しい。失敗も学習の一部。嬉しさを感じる時他教科の先生が私に話しかけてくれる時。みんなから歓迎されている気がするから。



AET
マリリン・スミスさん

プロフィール

カナダ生まれ。日本に
来て一年余になる。
・岡崎の先生の印象
いろいろなタイプの
先生がいる。熱心だ。
・岡崎の中学生の印象
概してシャイ。慣れ
てくるとそうでもない。
・教えていて楽しい時
特殊学級の子と接す
る時。反応が素直。
・特技、趣味
横笛、キャンピング、
カヌー等の野外活動。



地図や写真を展示してカナダを紹介。
外国を知るよい機会になる。



いっしょに給食を食
べることもある。

研修会の講師として指導する。
③スピーチコンテストの審査員
校内、校外で実施される英語
弁論大会の審査にあたる。
④授業時外での生徒への指導
放課や給食時等の時間に、直
接、子供たちと会話をする。
訪問対象は中学校であるが、
都合がつけば小学校へ行くこと
もあるという。
国際化の時代、外国人の先生
に直接指導を受けることは、英
語教育の外にも意義がある。

ちよつとした時を見
つけて会話をする。



要請があれば小学校へも行く。授業をしたり集会に
参加したりしていっしょに過ごすことが楽しい。小
学生は、すぐに慣れ親んでくれるそうだ。

▶学級活動にもコーチとして参
加、英会話の実習の場となる。



▶あやとりをして遊ぶ。
▶運動会に参加して走る。





お母さんつてありがたいな 矢作東小 柴田 昌一

「先生、最近娘が私の手伝いをしてくれるようになりました。『お母さん、ありがとう。』と、急に言われたので、私の方とまどいました。すずめの親子に感謝しなくてはいけませんね。」

一学期末の保護者会でうれしそうな表情で、すずめへの感謝の言葉をおっしゃられる母親がたくさんいらつしやつた。

七月三日の朝、順一君がぐったりしているすずめを拾ってきつた。子供たちは、交代ですずめに水やパンを与えたが、口にしてくれなかった。さみしそうに『ピー、ピーと、鳴くだけ

だった。

「なぜ、食べてくれないの。このまじや死んじやうよ。」

順一君、圭介君は、すずめに必死に語りかけていた。

三日目の朝、子供たちは、廊下を通る子たちに、静かにするよう注意していた。なんと、親鳥が窓の向こうの電線から、私たちをじっと見ていたのだ。

『ピー、すずめが鳴くと、親鳥はえさをくわえてやってきて。すずめは、口を一杯に広げて、おいしそうに食べていた。』

一週間後、今にも死ぬかと思われたすずめが元気になった。保護者会をしているとき、どこかへ飛んでいってしまった。

しかし、翌日の一時間に親子のすずめが廊下との境のかもしれないの上へ飛んで来た。しばらく鳴いた後、外へ飛び去つた。

「きつとお礼を言いに来たのだね。」

という子供たちの言葉に、私も心温まるものを感じた。

母親の手を焼かせていた雅生君が、日記帳にこんなことを書いてきた。

「母鳥はすごいと思う。自分の子供を捜し出し、弱っている自分の子供のために一生懸命えさを与えていたからだ。ぼ

くたちがえさを与えても全然食べなかつたのに、母鳥が与えると喜んで食べていた。母鳥のおかげですっかり元気に

なり、飛んでいった。お母さんつてありがたいな。お母さんに感謝しなくてはいけません。」

その後、雅生君は、母親に対して「うるさいな」という口答えをしなくなつたそうである。



三人の三年生部員

常磐中 黒野 峰幸

今年のNHK放送コンテストの結果発表のことである。

「ラジオ番組部門、優秀賞、岡崎市立常磐中学校」

この言葉が場内に流れたとき、たつた三人の三年生放送部員は思わず歓声をあげた。そして、ほつとした表情を見せた。

結果、この部門をはじめ、三部門で五枚の賞状を手にするこゝろができた。これまでで最高の枚数である。

放送部にとつて、一学期はコンテストに向けて番組制作やアナウンス練習をする大切な時期である。幸い、昨年は三枚、一

昨年は四枚の賞状を手にするこゝろができた。特に、昨年はテレビ番組のテーマにした牧場での体験レポートが「NHK中学生日記」で全国で紹介されるなど、

派手な活躍が多かつた。しかし、今年の三年にとつて、先輩の活躍は重荷になるばかりであつた。

「今年の番組のテーマ、何にしよう。」

こんな言葉はよく耳にしたが、これといった案はいっこうに出て来ない。

「先輩に負けるな。」

この気持ちが強ければ強いほど、彼女たちの思考を鈍らせる。そんな重苦しい状況を打ち破つたのがドラマ形式で仕上げられた一本の参考テープだつた。

「よし、これならいけるかも。」

そんなことをみんなが思つた。ひとつがうまくいくと、他のこゝろもうまく動き出す。いつの間にか取材計画もでき、役割分

担もされている。この三人の三年生部員は必ずしも放送部に向いているとはいえない。おとなしく、ひかえめな子である。そんな子がマイクを持ち、カメラの前に立ち、しっかりとした口調でインタビューをしていた。

コンテスト当日、生徒会で激励会を開いてくれた。その中で部長が、

「自分なりに満足できる作品ができました。」

といった。この言葉が三人の活動のすべてを物語つていた。

一時は、先輩の業績に押しつぶされそうになつた三人が、見事に押し返したのである。五枚の賞状が何よりの証である。



お知らせ



猛暑の中、熱戦繰り広げられる

—夏の各種大会終わる—

七月二十日(土)の小学校球技大会、中学校市長杯総合体育大会を皮切りに、各種大会が開催され、岡崎の健児は猛暑をものともせず大活躍をした。

〈愛知県総合体育大会〉

優勝

・軟式庭球男子

常磐 中学校

・相撲

新香山 中学校

・軟式庭球男子個人戦

鎌倉光成・松島洋幸

・陸上競技男子四百M

神尾 智 (美川中)

・陸上競技男子八百M

堀本修司 (竜海中)

・陸上競技男子一年百M

酒井大輔 (竜海中)

・水泳男子二百M バタフライ

木井 亨 (矢北中)

・水泳女子百M自由型

浦出智子 (矢作中)

・相撲個人の部

田宮啓司 (新香山中)

準優勝

・水泳男子総合

矢作北 中学校

・水泳男子四百MメドレーR

矢作北 中学校

・水泳男子四百Mリレー

矢作北 中学校

・陸上男子総合

竜海 中学校

・陸上女子四百Mリレー

矢作北 中学校

三位

・バスケットボール男子

甲山 中学校

優勝

・軟式庭球男子

常磐 中学校

・相撲

新香山 中学校

・水泳男子四百MメドレーR

矢作北 中学校

・水泳男子四百Mリレー

矢作北 中学校

・軟式庭球男子個人戦

走出龍一・樫 宏和

(常磐中)

・相撲個人戦

田宮啓司 (新香山中)

・陸上男子一年百M

酒井大輔 (竜海中)

・水泳女子百M自由型

浦出智子 (矢作中)

三位

・軟式庭球男子

加納善明・稲垣龍彦

(常磐中)

・水泳男子二百M バタフライ

木井 亨 (矢北中)

・水泳女子百M自由型

片平朱里 (竜南中)

〈通信陸上県大会〉

優勝

・走高跳女子

池上幸子 (城北中)

〈全国大会出場校〉

・陸上競技

南中 城北中 矢作中

・水泳競技

矢作北中

・相撲

新香山中

(詳細は十月号でお知らせします)

〈わんぱく相撲全国大会〉

優勝

片桐裕策 (本宿小)

県知事賞に生平小

第二十一回県鳥獣保護実績発表

表会が八月八日名古屋市中で開かれ、生平小が県知事賞に輝いた。

第44回岡崎市中学校市長杯総合体育大会兼西三河中学校選手権大会岡崎額田支所予選会 競技成績

種目	性	優勝	2位	3位	位
陸上競技 (8/1)	男	竜海	南	矢作北	
	女	矢作北	常磐	竜海	
バスケットボール	男	城北	甲山	北	矢作
	女	竜南	幸田	幸田北部	矢作北
バレーボール	男	東海	矢作北	矢作	新香山
	女	幸田北部	竜南	矢作	北
軟式庭球	男	常磐	矢作	幸田北部	福岡
	女	矢作	城北	幸田	福岡
卓球	男	幸田北部	幸田	幸田海	幸田南部
	女	幸田北部	矢作北	岩津	幸田南部
体操	男	東海	竜海	甲山	
	女	矢作北	竜海	北	
新体操	男	甲山	東海	六ッ美	
	女	竜海	六ッ美	矢作北	
剣道	男	幸田	矢作	常磐	幸田北部
	女	幸田	福岡	幸田南部	矢作北
ハンドボール	男	六ッ美	葵	美川	竜南
	女	新香山	美川	竜南	葵
軟式野球	男	幸田	竜海	南	城北
	女	幸田北部	竜海	城北	六ッ美
ソフトボール	男	北	竜海	新香山	竜南
	女	矢作	新香山	北	附
サッカー	男	矢作	新香山	北	南
	女	矢作	南	竜海	北

第44回岡崎市中学校市長杯総合成績

	優勝	準優勝	3位	4位	5位	6位
男子総合	竜海	矢作	矢作北	新香山	南	竜南
女子総合	矢作北	矢作	竜南	竜海	新香山	甲山
男女総合	矢作北	矢作	竜海	竜南	新香山	東海

平成3年度 岡崎市小学校球技大会成績
並びに水泳競技大会成績

種目	優勝	第2位	第3位
ソフトボール	男子	男 川羽	根大 門 竜美 丘
	女子	矢作南	広幡 連 尺 細 川
バレーボール	男子	上地 山中	大 門 矢作 東
	女子	六ッ美北	上地 六ッ美南 大樹 寺
バスケットボール	男子	大樹寺	本 宿 連 尺 細 川
	女子	竜美丘	梅園 広幡 上地
サッカー	男子	細川	梅園 小豆 坂 上地
	水泳	男子	大 門 三 島 羽 根
	女子	大 門 美 合	広 幡



郷土館

英習字帳

明治三十年代に使われていた英習字帳である。

当時の英語教育は尋常中学校だけでなく高等小学校でも行われていたようである。

文献によると、日本に初めて英語をもたらしたのは一六〇〇年（慶長五）、風浪に悩まされて日本に漂着した三浦按針（ウイリアム・アダムズ）だといわれる。英語教育が本格的に行われるようになったのは、幕末から明治初年にかけてのこととされており、ことに明治に入ってから英語私塾が全国に続出した。

- ・表紙写真
- ・表紙詩
- ・カット

矢作北小
矢作北小
美川中

小倉敏幸
稲垣英代
中嶋ゆかり

その上、明治新政府が教育制度の中に外国語を一科目としてとりあげ、その第一外国語に英語が選ばれたということである。

一八八六年（明治十九）、小学校令が公布され、岡崎では明治二十年六月、修業年限四年の高等小学校が開設された。英語を含む十三科目が設けられた。さらに、明治二十年代後半に至って尋常中学校への志願者が増加し、中学校の増設が認められるようになり、一八九五年（明治二十八）、岡崎に第二尋常中学校が設置されたのである。



- この本を
- | | | |
|----------------|------|-------|
| ※心のうた—教育へのわが思い | 竹下 哲 | ¥ 800 |
| 長崎出版文協会 | | |
| ※世界の見方考え方 | 大前研一 | ¥1500 |
| 講談社 | | |
| ※教育の心を問いつづけて | 谷 昌恒 | ¥ 350 |
| 岩波ブックレット | | |
| ※大國・日本の「正体」 | 谷沢永一 | ¥1200 |
| 講談社 | | |

- ※温故知新と一所懸命 樋口清之
NTT出版 ¥1340

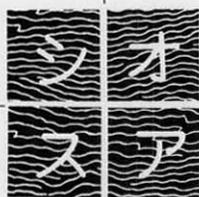
目覚ましい経済発展を遂げた日本および日本人への矛先は厳しい。新教育課程改訂の方針には、我が国の文化と伝統の尊重の上に立った国際理解の推進が強調されている。国際化が進むなかで、「日本人とは何か」まずその基礎的な教養を教師自身が身につけねばならない。

「梅干と日本刀」の著者が、先人たちの生の営みのなかに、これから生きる日本人の知恵を探る。今こそ温故知新。日本人の誇りと自信を再認識させてくれる。

オリンピックまであと一年。開催地バセルロナでは着々と準備が進行中という。世界中のスポーツマンが栄光の金メダルをめざして厳しいトレーニングを積んでいる。しかし、その原点は「参加すること」に意義がありである。さて、教育の原点は。実りの二学期。子供たち全員に金メダルを与えたい。

指導者としての資質に、専門性・活力・獨創性・個性の四つが大切なことをある先生から聞いた。

卓球の神谷先生のお話を思い出しながら、改めてこの四つの言葉の意味を考えてみた。日頃、忙しさのために見失いがちなことである。指導する前にまず、自分の足元から固めなければならない。



暑い盛りに、卓球に携わって四十年という神谷新三氏の貴重なお話をお伺いできる機会に恵まれた。今の時期だけでなく、将来をじっくりと見極めた生涯教育の必要性をつくづく感じさせられた。

今月も汗を流しながらボールを追う子供たちの真剣なまなざしが目に浮かぶ。

睡眠不足のためか、目に輝きのない子、不規則な食事のため、顔色の悪い子、黒く日に焼け、一段とたくましさを増した子。長い夏休み明けに見られる子供たちの姿である。顔色、表情から、夏休み中の生活の様子を感じとることができる。規則正しい生活リズムを早く取り戻させてやりたい。